The Japan Lung Cancer Society

九州支部

□第30回 日本肺癌学会九州支部会

平成2年8月1日(水),
2日(木)
オリアナ号
当番幹事　原　信之
(九州がんセンター)

1．佐賀県の肺癌検診の現状について

佐賀県成人病検診協議会肺癌部会　古川次男,吉田猛朗

佐賀県では昭和63年度より肺癌検診が実施され，受診者総数は昭和63年度が32,719人，平成元年度が48,540人で，発見された肺癌は昭和63年度22例，平成元年度20例の計42例で，人口10万人に対する発見率はそれぞれ，67人，41人であった．発見肺癌のうちⅠ期が20例(57%)で，早期肺癌は5例(12%)であった．

2．間接フィルムを用いた肺癌集団検診について

熊本県成人病予防協会集団検診班　松本武敏,福田浩一郎
木村孝文,田中不二穂
岳中耐夫,志摩　清
絹脇悦生,清田幸雄
平田奈穂美,渡辺純子
泉　薫子

1988年度にX線検査を受診した11,323例のうち，臨床病期Ⅰ・Ⅱ期で発見された7例や，比較読影E判定180例について精度管理を検討した．

3．鹿児島県における老人保健法による肺癌検診の実施状況について

鹿児島県民総合保健センター
川越裕行,桶谷　薫
鎌田さよ子,山本聖子
神崎辰代,甲斐ゆき子
平原寿美,尾辻義人
鹿児島県保健予防課　宮田義彦
鹿児島大放射線科　田口正人
伊東祐治

昭和62年より肺癌検診を実施した結果，3年間で20例，10万対46という結果で肺癌患者が発見された．

4．肺癌検診により発見された肺癌について

鹿児島大放射線科　田口正人
伊東祐治,向井浩文
鹿児島県民総合保健センター
川越裕行,尾辻義人
鹿児島県保健予防課　宮田義彦

昭和62年度より実施された鹿児島県肺癌検診にて発見された肺癌は20例で，発見方法は間接17例，喀痰細胞診2例，両者1例であり，発生部位は肺門部2例，肺野部14例，病期はⅠ期4例，Ⅱ期2例，Ⅲ期9例，Ⅳ期1例であった．

5．喀痰検診で発見された肺癌症例の検討

大分県立病院胸部血管外科
内山貴堯,山岡憲夫,谷口英樹
森永真史,山崎直哉

昭和62年より住民検診に喀痰細胞診が取り入れられ，これまで5878例のうち肺癌は5例である．全例男性で，喫煙係数は全例1000以上であった．発生部位は左上区，右B^3, B^1b, B^3a, B^6にあり，全例術前診断は可能で，手術を施行し，病理組織学的には気管支外層までの扁平上皮癌の早期肺癌であった．

6．肺癌検診で発見されたRadiologically occult lung cancerの3症例

佐賀県立病院好生館外科
石田博徳,古川次夫,米村智弘
吉田猛朗
同　内科　小柳孝太郎
同　病理　宮本祐一

肺癌検診の喀痰細胞診を契機に発見され，2例は肺門部早期肺癌，1例は肺野型早期肺癌だった．検診における喀痰細胞診の2例は判定“C”で，当院では“E”(陽性)であり，検診における3日間蓄痰のサコマノ法に考慮すべき点がある．

7．肺癌の縦隔リンパ節転移のCT－腫大形態とその意義

産業医大放射線科
小野村健太郎,中田　肇
同　第2外科　白日高歩

肺癌のリンパ節転移の腫大形態に着目し，予後との関係を中心に検討した．CTにてリンパ節腫大を認めないか，認めても融合傾向や周囲脂肪層への浸潤のみられないものは，比較的予後良好な傾向であり，根治手術適応になり易いと考えられた．

8．CDDP吸入療法の実験的検討

長崎大第2内科　木下明敏
早田　宏,広瀬清人,谷口哲夫
岡三喜男,原　耕平

CDDP吸入療法について実験的検討を行った．マウスにCDDPのミストを吸入させ，血液，肺のプラチナ濃度を測定した．また腹水乳癌FM3A細胞を用いた経気道転移実験モデルを作成し，CDDP吸入療法の直接効果についても検討を行い，CDDP吸入群とコントロール群の間で差がみられた．

9．カルシウム拮抗剤の併用を試みたCDDP＋VP-16に治療抵抗性の肺扁平上皮癌の2例および初回治療肺扁平上皮癌の1例

北九州市立松寿園　斎藤猛彦
吉田知司,松葉健一,塩井芳尚
九州大胸部疾患研　重松信昭

NII-Electronic Library Service